



2023年度年次報告書
NPO法人ソルウェイズ

Annual Report 2023-2024



代表あいさつ

2023年度は、新型コロナウイルス感染症流行の落ち着いたを受けて、ソルウェイズでもこれまで制限していた対面の活動の取り組みを再開し、活気溢れる1年となりました。

2022年から取り組んでいる「北海道の医療的ケア児の未来を拓くプロジェクト(通称、いけプロ)」も、この1年の間にめまぐるしい変化がありました。



当初、新施設建設に予定していた土地の開発許可等が降りず、断念せざるを得ない事態に陥りました。日頃からご支援くださり、ソルウェイズの活動に期待を寄せるご家族のために諦めるわけにはいかないと、何度も検討を重ね、場所を変え、予定通り、2024年8月着工、2025年開設することができそうです。

この新施設の開設にあたり、公益財団法人日本財団「医療的ケアに対応した難病の子どもと家族を支える拠点の整備」助成金に採択いただくことになりました。

ソルウェイズにとって、かつてない大ニュースとなり、壮大すぎるスケールの「いけプロ」がいよいよ実現すると、法人内も一気に士気が上がっています。

この取り組みが社会的に重要な役割を担うものと再認識し、他地域のモデルとなるべく邁進していきたいと思えます。

今後とも、みなさんのご支援よろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人 ソルウェイズ
代表理事 運上佳江

も く じ

- 代表あいさつ 1
- 団体概要 2
- 特集1 北海道の医療的ケア児の未来を拓くプロジェクト2023 3-6
- 特集2 どんな重い障がいがあっても地域で生きることができる社会へ 7-8
- 2023年度事業報告 9-12
- 数字で見るソルウェイズ2023 13
- 2023年度決算報告 14
- 2024年度事業計画 15
- ソルウェイズを応援する 16
- 法人・個人サポーター一覧 17-18

団体概要

ソルウェイズは、重い障がいや医療的ケアのある子どもたちを在宅で介護する母親たちが集まり、子どもたちの居場所を作りたいと2017年1月に法人を開設しました。当時は、こうした子どもたちを預けられる施設や利用できるサービスが少なく、支援の不足は介護しているご家族の社会的孤立の大きな要因となっていました。札幌市内に、重症児デイサービス「ソルキッズ」を開所したことを皮切りに、札幌市と石狩市で現在は5事業所を運営するほか、居宅介護、訪問看護、相談室、居宅訪問型児童発達支援、保育所等訪問支援などの事業を運営しています。

事業所一覧

重症児デイサービス ソルキッズ
居宅訪問型児童発達支援 バンビ
医療的ケア児者相談ステーション みらいく
札幌市中央区北10条西19丁目1-1 越後屋ビル
TEL: 011-676-4557

多機能型重症児者デイサービス モアナ
札幌市北区新琴似9条5丁目3-16
TEL: 011-299-4433

重症児デイサービス リノキッズ
札幌市南区澄川5条3丁目9-10 ライオンズマンション1階
TEL: 011-374-5772

重症児デイサービス あいキッズ
保育所等訪問支援 シンバ
石狩市花川南2条3丁目91-2 あいまち1階
TEL: 0133-62-8103

重症児デイサービス ラナキッズ
札幌市北区新琴似9条4丁目5-17
TEL: 011-299-3979

居宅介護事業所(重度訪問介護・移動支援) リマ
札幌市北区新琴似9条5丁目3-6-101
TEL: 011-299-5605

訪問看護ステーション あみえる
札幌市北区新琴似9条5丁目3-6-102
TEL: 011-500-2871

map





北海道の医療的ケア児の未来を拓くプロジェクト

ショートステイのあるインクルーシブ拠点

2022年よりスタートした「北海道で暮らす医療的ケア児の未来を拓くプロジェクト（以下、いけプロ）」。

長期的な構想をもった本プロジェクトでは、医療的ケア児とその家族を地域で支える仕組みづくりを、北海道全体へと広げていくことを目標としています。

まずは2025年4月の開業を目指して、重い障がいがあってもお泊まりができるショートステイと小児科の専門医が常勤するクリニックの準備が整い、2024年8月に札幌市近郊の石狩市花川にて着工します。そして2030年の完成を目処に、保育園やあそびの広場、薬局、学びサロン・図書室、テナント付きアパート、訪問看護ステーション、グループホームなど、地域福祉を担う開かれたインクルーシブな拠点をつくっていきます。

ショートステイでは、これまで重症児デイサービスで培った経験を活かし、人工呼吸器や経管栄養など、医療依存度の高い子どもたちと接してきた看護師や介護士が医療的ケアを担うだけでなく、保育士や機能訓練士なども積極的に関わります。お泊まりの時間を楽しく有意義なものにすることで、子どもたちや家族にとって第二の家のような居場所を整えます。家族のレスパイト（休息）としてだけでなく、子どもたちがショートステイを介して心を満たし、さらに家族以外の人と交流することは、子どもたちが地域で暮らし、成長していく上でも重要な役割を持っています。

そして、医療的ケア児が安心して生涯を送るためには、継続的に地域で見守ることのできるコミュニティの形成が求められます。これまで共に地域福祉を支え、新たにプロジェクトに賛同する事業者等と連携を図り、交流を動機付ける活動提供や、それを後押しする持続性の高い仕組み等、ローカルイニシアティブを構築していきます。

「いけプロ」のロゴマーク

2023年4月に「いけプロ」のロゴマークを公募し、集まった18作品の中からプロジェクトのシンボルとなるデザインが決定しました。「壮大なプロジェクトの過程で、どんな困難にぶつかっても、『一人ひとりと大切に向き合う』という原点を大事にしていく気持ちを表現しました。」という制作者の願いが込められています。

色味は北海道の雄大な大地をイメージしたグリーン、澄み渡った大空のブルー、人々を温かく照らす太陽のオレンジ、そして力強く根をはる樹木のブラウンからインスピレーションを得て制作されました。



2025年に開設する、ショートステイのシミュレーションとして、2023年度も「お泊まり会」を実施しました。昨年度から引き続き実施した「お泊まり会」ですが、2024年度は、子どもたちの自立をテーマに目的も定めています。

<p>親離れ・子離れ</p> <p>親の付き添いなく宿泊を伴うショートステイを利用したことがない子を選定</p>	<p>高校卒業後のライフステージの変化</p> <p>高校生を対象に選定、また、その子のお友達と一緒に泊まりしてくれる子を選定</p>
<p>デイサービスのスタッフだけでなく法人内での連携、より多くの支援者につながる</p> <p>デイサービスと訪問看護ステーションのスタッフでお泊まり会を開催</p>	<p>子どもたちの希望を叶える</p> <p>おたのしみ会的なイベントを企画し開催する</p>

お泊まり会は、「三菱電機 × 中央共同募金会『三菱電機創立100周年記念助成』」を受けて実施しました。

あいキッズお泊まり会 2023 8/5日～8/6日 中谷 絵里さん

7歳の英一朗くんと3歳の風太くんは、兄弟であいキッズの「お泊まり会」に参加！過去に行われたお泊まり会に行ってみたかった英一朗くんの思いもあり、初めて親元を離れての一泊に挑戦。夕方はみんなで地域の夏祭りに出かけ、盆踊りにも参加しました。風太くんの大好きなクッキングの時間もあり、普段から一緒に過ごす友達やスタッフと過ごすワクワクした夜に。一方、母の絵里さんは「預けた後しばらくして、わざわざあいキッズの前を通ってみたり、おでかけの時間は公園まで行ってこっそりのぞいたり……でも二人とも楽しそうに過ごしていて、もう赤ちゃんじゃないんだと成長を感じました。呼吸器の管理や胃ろうなど医療的ケアの多い二人ですが、安心して預けられます。ショートステイは家族のレスパイトとしてだけでなく、遊びに行くような楽しさや新しい経験をできる面白さなどを経験できる場所としての役割がいかに大切かを改めて感じました。」と語りました。

ソルキッズお泊まり会 2023 8/12日～8/13日 2024 2/3日～2/4日10:00 宮下 浩文さん

ソルキッズにて2023年8月に開催された「お泊まり会」に参加した、16歳の陽奈子さん。これまでショートステイに対してあまり前向きではなかった陽奈子さんですが、今回は自ら「お泊まり会にいきたい」と言い、初めて親元を離れての宿泊となりました。「親の心配をよそに、心から楽しんで帰ってきました。家ではいつまでも思い出し笑いをしていて、嬉し涙も見せていました」と父・浩文さん。焼肉をし、フルーツポンチを作り、みんなで花火もして夏を満喫。陽奈さんは夜中も小さい子の様子を見に行くなどお世話をし、誰よりも遅くまで夜更かしをしていたんだとか。翌年2月に開催されたお泊まり会にも参加し、浩文さんは「心のどこかで寂しい気持ちはありますが、いずれ自立してほしいという思いもあります。一人暮らしは楽しくないと続かないと思うので、信頼できる人に恵まれたらできるんだと感じることができました。」と話しました。

公益財団法人日本財団の助成金が決定！新施設の名称は こども未来支援拠点「あいのカタチ」

「いけプロ」は、たくさんの方にご賛同いただきながら2030年までの事業計画を作り進めていますが、2025年の施設開設に向けて、大きな助成金が決まりました。

「医療的ケアに対応した難病の子どもと家族を支える拠点の整備」として、公益財団法人日本財団より約3億3千700万円をいただけることになりました。



建設・設備費用の8割をカバーする大きな助成金です。それと同時に、重い障がいや医療的ケアのある子どもと家族を支える拠点という大切な役割を担っていることを改めて実感し、大事な1年間になると考えています。

この助成金に採択していただけたのも、この3年間賛同してくださった皆様やご家族、支援者、地域の皆様、全道、全国の仲間たち、また、助成団体の皆様に支えられ、ご支援いただいた結果だと思っています。心より感謝申し上げます。

新施設には、小児科クリニック、病児保育、児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護、ショートステイ（医療的ケア対応）、カフェスペースが含まれます。

この複合施設の名前を、【こども未来支援拠点「あいのカタチ」】と命名しました。ソルウェイズがこれまで取り組んできた、重症児デイサービス、訪問看護、居宅介護、相談室、小児科クリニック、病児保育、ショートステイ、これらがすべて揃ってこそ、家族を支援するカタチになり、子どもやご家族を想うさまざまなピースが集まった「あいのカタチ」を創っていきたく思っています。

「あいのカタチ」のロゴマークに込めた思い



新施設の開設場所の石狩市の頭文字のi『あい』

重症児デイサービス あいキッズの『あい』

あいキッズのある場所である あいまちの『あい』

ソルウェイズのロゴの『スマイルマーク』

子どもやご家族を支援する中の一つにソルウェイズという『ピース』があるという思いが込められています。



小児科クリニックは、「自宅のようにリラックスできるような居場所」をコンセプトとしています。そのクリニックの院長に就任するのが、ソルウェイズの理事も務める田村卓也医師です。小児集中治療や救急医療を専門としてきたキャリアストーリーから、地域の小児科医として感じている自身の役割、そしてプロジェクトが果たす社会的な意義までをインタビューしました。

インタビュー

▶ 田村さんが小児科医になった経緯とは？

元々医学部に入ったときは、精神科の勉強がしくて入りました。その中でも児童精神科に興味があり、2001年の卒業後にはまず小児科医の道へ進みました。そしたら小児科の仕事が面白くなり、東京の大学病院で1年働いたのち、新生児の勉強をしに千葉の市立病院で学び、群馬や北九州、神戸などの小児科で勤務しました。札幌に来たのは、2012年からで、手稲溪仁会病院のこども救命センターで小児救急を専門としてきました。

小児科医 田村卓也先生	先生に聞いてみました
	Q.ニックネーム(呼ばれたい名前) A.タムタム
	Q.好きな食べもの A.蕎麦
	Q.先生がやっていたスポーツ A.野球、卓球
	Q.趣味 A.コーヒーを淹れる
	Q.いま一番楽しんでいること A.子どもの野球

▶ 全国の小児医療に携われてきた中で、医療的ケア児を取り巻く環境についてどのように感じていますか。

やはり小児の在宅医療については、地域差が大きいを感じています。札幌市には医療的ケア児の在宅診療をする医師がいて、訪問看護などのサービスを利用する選択肢があり、デイサービスやショートステイなど家に帰りやすい環境整備は次のステージに進んでいると思います。しかし、そういった環境がない地域の方が圧倒的に多く、そうなると選択肢としてあるのは、病院や療養施設に入るか、家族が介護する覚悟を決めて自宅で一緒に暮らし、通院をしながら定期的な診療を受けるか。まだまだ全国的には在宅生活をサポートする体制は足りていないと感じます。

▶ 長年携わってきた小児集中治療や小児救急の分野から、地域の小児科医へと転向されるわけですが、ご自身の役割をどのように感じていますか。

私自身は、医師としてこのプロジェクトを常に応援する立場でいたいと思っています。というのも、やはり医療的ケア児を育てている親が立ち上がり、当事者の視点を落とし込んだ運営をしていることに意義があると感じていて、だからこそ先々のことまで見通して計画し、事業として成功している要素が大きいと感じます。なので、すごく良い活動に賛同する気持ちも込めて、医師である自分が口出しをして主体的に携わるというよりは、伴走者としてサポートできたらいいなと考えています。

▶ 医療的ケア児とは具体的にどのように関わっていくのでしょうか？

利用者側からの希望によって変わってきますが、主にデイサービスとショートステイの子どもたちの体調をみたり、薬を処方したり、日常的な診療をするなどさまざまです。子どもたちが安心して暮らせるよう、新しく出てきたニーズに応じて、対応していけたらと考えています。

▶ 地域の小児科クリニックとしてさまざまな家庭が利用されると思いますが、どんな場所にしていきたいですか？

地域医療はしっかりやりたいと思うのと同時に、子どもたちの成長を見守り、交流できる拠点になったらいいと思います。クリニックには必然的に、その地域に暮らす医療的ケア児と健常児が訪れるので、その接点が子どもたちや家族にとってプラスになるような場所を提供できたらいいですね。

▶ 当初の小児精神にも回帰してくるわけですね。

そうですね。小児科をやっていると必ず対峙することなので、もっと勉強し、地域のクリニックとして果たせる役割を模索していけたらと思います。

▶ 最後に、同プロジェクトを通してどんな変化が生まれていくことを期待していますか。

地域で暮らす家族が安心してデイサービスやショートステイを気軽に利用できるようになったら、医療的ケア児であっても親子がさまざまなことを諦めることなく、それぞれの人生を切り開いていくことが当たり前になっていくのではないのでしょうか。たとえば、小学校に入学したばかりの頃は、子どもが一人で学校に歩いていくことに対して親は不安を感じるかと思います。自分がみてないところで子どもがどう行動するか、事故に遭わないかなど心配になりますよね。でも、みんな毎日学校に行くシステムだから、慣れてくることでその不安はだんだんとなくなっていき、親子が離れて過ごす時間があることが日常になってきます。なので、医療的ケアがあっても、安心して預けられるようなシステムになるくらい整えていくことができれば、「不安なく暮らせる社会」を実現することができると思います。そのためにも、地域の医師として信頼関係を育てていくことが非常に大事になってくると感じていますので、日頃から関わりながら真摯に向き合っていきたいです。

どんな重い障がいがあっても地域で生きることができる社会へ



訪問看護ステーション あみえる

札幌市北区新琴似 9条5丁目 3-6-102
TEL : 011-500-2871

看護師、保健師、理学療法士等が自宅や施設に訪問し、状態観察や医療的ケア、リハビリテーションなどのサービス提供を行います。何歳でも、札幌市のどこに住んでいても、支援が必要な人のもとを訪れ、多様なニーズに応えられるような体制を整え

ています。家族やきょうだいの学校行事に伴った家族の外出時や、保育園に通う医療的ケア児のサポートなど、最大限可能な範囲で柔軟に対応している他、病院と連携しながら退院した際の在宅でのケア指導なども行っています。同じ地域で生きる仲間として、ライフイベントを一緒に楽しみ、笑顔で幸せな日々を送れるようサポートしています。

久保田 美優 看護師

あみえるのオープンから携わり、4年目を迎える看護師の久保田美優。訪問看護に入る上で心がけていることは、各家庭に合わせたケアだと言います。「利用者さんと一緒に暮らすご両親やきょうだいがケアのポイントを一番わかっていて、細かく教えてくれます。病院の場合は手順などある程度画一化されていますが、訪問看護では、なるべく家族のやり方に順応しながらやっていくことを大事にしています。『来てくれてよかった』と声をかけてもらうこともあり、その言葉がまた力になっています。」
管理業務のトレーニングも受けている久保田さんは、あみえるのスタッフの人材育成やシームレスなコミュニケーションにも心血を注いでいると言います。「看護とリハビリが完全に分業するのではなく、統合的に利用者を見ていけるような仕組みづくりをしています。また、人材育成をする中で今まで消極的だったスタッフが発言するようになるなど、変化していく姿勢を見ると嬉しいです。私たちのミッション、『生まれてから看取りまで。ライフイベントを楽しみながら、地域で暮らし続けられる社会を作り続けます』を達成することを胸に、それに向かってスタッフみんながどう行動するとよいのか、その方向づけができればいいかと常に考えています。頑張っあみえるを盛り上げていきたいです。」

佐藤 奈々美 理学療法士

総合病院にて急性期から回復期までのリハビリを担当したのち、利用者の生活に寄り添った支援を行いたいという思いから、あみえるに入社した佐藤奈々美は今年2年目を迎えます。子どもに対するリハビリに難しさを感じつつも、日々勉強しながら仕事をする上で大切にしていることが三つあると言います。「一つ目は、利用者やその家族との信頼関係を築き、個別性を意識することです。一人として同じ人はいないので、ニーズを聞き、考え方や背景を理解した上で向き合うことを大事にしています。二つ目は、様々な人とのコミュニケーションを取ることで、そして三つ目は継続的な学びと自己研鑽です。」
もっと信頼されるセラピストになるために、佐藤は「医療的ケア児支援コーディネーター」という新たな資格取得に向けて勉強中だと話します。「理学療法だけでなく、制度や心理面、環境調整など多方面からサポートしていくことが大事だと感じています。住み慣れた地域で、信頼できる人や自分の子どもと安心して暮らしたいという思いを実現できることは、幸福感につながっていると思います。医療的ケアが必要な中で地域で暮らすことには心理的にも物理的にもバリアがありますが、訪問看護・リハビリでは地域社会と連携し、笑顔で幸せな生活をサポートできる存在でありたいです。」



所長 岩間旭の密着 24時!



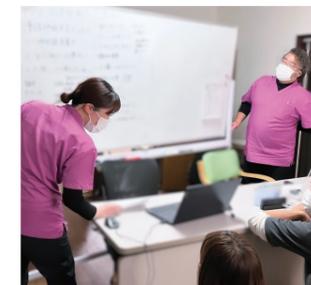
あみえる所長の岩間旭は、医師の野口英世から影響を受け、小学校の卒業文集には「人のために生きる」という決意を記しました。そして医療従事者を目指し、看護学校卒業後は東京の大学病院で外科や救急を担当し、札幌では人工呼吸器を装着した患者が多く入院する病院に勤務しました。そこで、変わらない景色や季節感のない入院環境が患者にとって幸せなのか疑問を感じたと言います。

「中には小児の患者さんもいて、家族が面会ギリギリまで過ごし、別れを惜しんで帰っていくのを見て、どうして一緒に暮らせないのかと

思いました。高齢者でも、家に帰りたいと願ったら帰ることはできないのか、と日々感じる中で、何とか家に帰れるよう環境整備をしようと思い、訪問看護を始めました。小児から最期まで、在宅で関わっていけたらと思っています。」

利用者ファーストを心がける岩間は、新規の依頼や相談を絶対に断ることなく、可能な限り遠隔地にも訪問に行きます。そんな岩間の多忙な一日に密着!

- 5:30 起床。電話やLINEが利用者から来ていないかチェック。
- 7:00 自宅を出発し事務所へ。
- 8:00 事務所にて書類を確認し、勤務表の作成や実績の確認等事務作業。関連事業所やクリニックと電話しながら、訪問スケジュールなどを計画する。
- 9:00 小児の利用者さんがデイサービスへ行く前の体調確認と準備。
- 11:00 新規の利用者宅を訪問。
- 12:00 担当者会議、契約書の準備、初回の体調確認等。
- 13:30 昼食
- 14:00 訪問。体調確認、服薬管理、入浴介助、人工呼吸器や胃ろう管理等。
- 16:00 事務所へ戻り、スタッフと計画書を評価し、記録や書類を作成。他事業所との連携調整なども行う。
- 17:30 退勤
- 18:30 帰宅。家族と過ごす時間。
- 21:00 残務整理
- 23:00 就寝



2023年度ハイライト

2023年度もみなさんからいただいたご寄付や助成金、また他法人様のお声かけにて、重い障がいや医療的ケアが必要な子どもたち、またそのご家族、ごきょうだい、ソルウェイズの事業に関係する皆様、地域の皆様と一緒にさまざまなイベントや活動を行うことができました。

2023年6月15日開催
ティコ 重症児デイサービス ラナキッズ
(多機能型重症児者デイサービス モアナと合同イベント)
障がいのある子どもの自立支援ブランドティコ



2023年7月16日開催
医療的ケア児・重症児の「歯科と栄養」～医療的ケア児・重症児に関わるみなさんに知ってほしい「歯科と栄養」のこと
医療法人稲生会・医療法人メディエフ寺嶋歯科医院・NPO 法人ゆめのめのご協力により開催した研修会



2023年7月28日石狩市開催/2023年7月29日札幌市開催
心魂プロジェクト北海道公演
公益財団法人日本財団



2023年8月26日・27日開催
医療的ケア児や重症児の地域で生きる力を育む
「医療的ケア児・重症児を支援する多職種、保護者に向けた学習会」
NPO 法人ソルウェイズ社内研修会
～ソーシャルスキルトレーニングを知る・保護者連携について体験する



ソルウェイズの活動 その1 当事者 (重度の障害や医療的ケア児者)

親から離れても不安なく過ごすことができる経験を作る
ソルウェイズで運営している重症児者デイサービスでは、季節のイベントごとの活動に取り組んでいます。

保護者、きょうだいも参加のイベントを開催

日頃から、保護者の付き添いなく事業所に来所し過ごしているため、事業所を利用している保護者同士が出会い交流する機会がありません。そこで、保護者交流会を開催し、繋がりを作ってもらったり、就学について先輩ママさんに話を聞く時間を設けました。
また、事業所スタッフから、事業所を利用してくださっている子どもたちとその家族、きょうだいへ感謝をこめて、みんなが楽しめるレクリエーションやお祭りを開催しました。
また、保護者へ開かれた事業所となるよう、子どもたちが重症児デイサービスでどのように過ごしているかを見もらうために「参観日」も実施しています。



ソルウェイズの活動 その 2 家族



重症児・医療的ケア児のママたちの「また働きたい」を応援

2021年に「医療的ケア児支援法」が施行され、各自治体において保育園や学校でも医療的ケア児を受け入れるための準備が始まりました。それにより、国や自治体などが保育園や学校に看護師または喀痰吸引等が可能な保育士を配置することが責務となり、人材育成や人材確保などの環境整備を進めることが明文化されました。しかし、医療的ケア児との関わりが少なかった保育園や学校では、受け入れ体制をつくるにあたって困難な場面があるのも現実です。

そこで、医療的ケア児について知る機会をつくり、情報提供や相談することができるネットワーク構築をすべく、公益財団法人日本財団の助成を受けて2023年度に勉強会を4回開催しました。そのうち1回は対面で行い、全ての回をアーカイブ配信しました。本勉強会について、石狩市内の認定こども園で行われた石狩市保育所連絡協議会にて周知活動を行ったこともあり269名が参加しました。

医療的ケア児が保育園・学校に通える地域をつくろう！

第1回 2023年6月28日
医療的ケア児の保育 デイサービスの療育



第2回 2023年8月23日
医療的ケア児とは 医療的ケア児支援センター～役割と活用法～



第3回 2023年10月28日
子どもに関わる職種が知っておきたい救急対応 小児のお薬



第4回 2024年2月27日
地域ネットワークの構築と医療・福祉サービスの連携 家族から



重症児デイサービス あいキッズがある石狩市では「待機児童ゼロ」を目指しており、医療的ケア児についても保護者の希望があれば認定こども園に入学できる取り組みが始まっています。そこで、石狩市から委託を受けたソルウェイズで働く看護師が、医療的ケアを行うだけでなく、ケアを担える人材の育成などを目的に、認定こども園に出向いています。現在3歳の平澤柚望さんは、医療的ケアがありつつも石狩市の認定こども園に通っています。入園から現在までを、母親の陽子さんに話を聞きました。

「2020年12月22日、娘の柚望は予定より一カ月早く生まれてきました。2000グラムだった娘は3カ月間NICUで過ごし、そこで初めてダウン症がわかり、尿を自排できないため導尿の処置を行いました」生後すぐの頃をこう振り返る平澤陽子さん。10年間フルタイム正社員で働いていた陽子さんは、急速育児休暇を延長し、少し落ち着いたら仕事復帰できるように保育園を探しました。「生後半年頃に行政の窓口に行ったところ、保育園はダウン症の受け入れ実績はあるけれど、医療行為である導尿の対応ができないと言われてきました。しかしその頃、医療的ケア児支援法が設立され、石狩市で受け入れ体制を整えるための予算がつくことになりました。それによって週5で通える体制が整い、2022年4月に入園が決まりました」。白血病になり入園が延期となってしまったものの、2歳半から柚望ちゃんは石狩市の認定こども園に通い始め、訪問看護を利用しながら医療的ケアに対応しています。デイサービスをバランスよく利用しながら、体調に合わせた日常生活を送る中で、日々大きな成長を感じると陽子さんは言います。「同世代の子どもたちと一緒に過ごすことは良い刺激になっています。周りの友達を手伝ってくれて、一緒にやろうと声をかけてくれるので、柚望も自発的に何かをしようという意欲が出てきます。そういう機会って大事だと思います。一方、陽子さんは同じ職場に復帰し、時短勤務で働いています。「キャリアダウンの扱いをされることもなく、やりがいのある仕事を任せてもらえていることが大変ありがたいです。働くことでいろんな人との接点ができ、得られるものも多く、楽しいです。家庭以外にも自分の居場所があることは自分のためにもなります。自分の人生を諦めなくてもいい選択肢があることは重要だと感じています」。

ソルウェイズの活動 その 3 地域



ショートステイや長時間レスパイトを身近に

2025年に開設する、ショートステイのシミュレーションとして、「お泊まり会」や、デイサービスの利用時間を夜間まで延長した「お泊まらない会」を開催しました。

こちらの取り組みは「三菱電機 × 中央共同募金会『三菱電機創立100周年記念助成』」を受けて実施しました。

お泊まらない会 2023/8/19 (土) 開催
重症児デイサービス リノキッズ



お泊まり会 2023/8/12～13
重症児デイサービス ソルキッズと
訪問看護ステーションあみえる 合同開催



お泊まり会 2023/8/5～6
重症児デイサービス あいキッズ



お泊まり会 2024/2/3～4
重症児デイサービス ソルキッズとラナキッズ
訪問看護ステーションあみえる 合同開催



利用児ご家族の声

- 普段家族だけでは行けないような場所へ行き、楽しかったようで、帰宅してから興奮した様子で話していました。
- チームラボに行ったことを話すと、得意げな顔をして、行った事をアピールしています。娘は帰り道ずっと「楽しかった～」「またお泊まり会に行く」と何度も言っていました。
- 普段は食べないのに(お泊まり会で食べた)パンケーキとメイプルシロップを欲しいと言い、お泊まり会の余韻に浸っているようでした。
- 親から離れてお泊まりするのはNICU以来です。約15年ぶり。夏の最高の思い出を作ることができました。
- いつもと違う時間帯でしたが、子どもをよく理解してくれている看護師さんやスタッフさん達と一緒に過ごすという事で、安心してお願いすることができました。日常生活の中で就寝前に入浴というのは娘たちが1歳以降していないので、それがすごくありがたいと思いました。
- 大好きなお友だちが体調を崩して参加できない…と知ると心配でお手紙を書いたり、その子が参加できると知ると嬉しくてニコニコしたり、お泊まり会の朝は早く起きてソワソワしたり。肝心な夜のお楽しみ花火はウトウトしてしまいましたが、家ではできない体験ばかりで楽しかったのか、迎えに行くとき表情がかなり良く、帰宅後も長い間余韻に浸っていました。
- 朝まで一緒に過ごしていただいたスタッフの皆様、本当にありがとうございました。第2弾も楽しみにしています！！
- ▶ **不安や困ったこと**
 - 大好きなあいキッズでお泊まり会だったので、不安はなく、とても楽しみに迎えることができました。ショートステイ利用の経験がなく、NICUを卒業して以来、親と離れて夜を過ごすことがなかったので、本当に大丈夫かという気持ちもありました。
 - 普段の利用中から、ケアや体調面、家での過ごし方など相談できているので、信頼していて、今回お泊り会のお誘いをお願い嬉しかったです。薬の持たせ忘れがありました。災害備蓄を預けていたので良かったです。
- ▶ **参加してみて良かったこと**
 - 初めてお友達とお泊まりができました。

- いつも関わってくれるスタッフなので安心して任せることができました。
- 普段自宅一人でやっているケアを手伝ってもらい、休息できました。
- 夜間帯の状況を知ってもらえたことが良かったです。
- いつものあいキッズなのに興奮した様子であまり寝られなかった様子でしたが、状態は安定して楽しんでいました。
- 母子ともにかげえのない思い出を作ることができました。子供たちが(兄弟で参加)楽しんでくれて、安心して夜も眠り、体調の変化もなく過ごせたことがとても嬉しかったです。リラックスして過ごせたことに成長を感じることが出来たし、あいキッズのスタッフさんの関わりのおかげだと思いました。長男はお泊まり会に行く前、不安な表情や言動も垣間見ることがあったが、お泊まり会から帰宅後はずっと笑顔で「また泊まりたい！」と泣くくらいうれしく思い出深いイベントとなったようです。次男は帰宅後しばらく怒っていて、「なんでママ来なかったの！」という態度をしていました。子供たちの違いや成長を見られてうれしかったです。
- ▶ **もっとこうだったらいいのにな**
 - お泊まり会では送迎してもらえたので、実際ショートステイでも送迎があれば本当に助かるなど思いました。
 - いつも荷物が多く、送り迎えがとても大変なので、送迎があると嬉しいです。普段利用しているショートステイでは夜間の様子がわからないので、簡単にでもその日の状態を知らせてもらえると安心します。
- ▶ **ソルウェイズでショートステイができたら、どのようなショートステイを望むか**
 - ショートステイでもリハビリがあると嬉しいです。
 - いつも接しているスタッフに、安心して任せられる、あたたかな場所であるといいなと思います。
 - 今回のように、添い寝して寝かしつけてくれたり、夜中に目覚めたときに手を握ってくれたり、とんとんしてくれたり、家族と変わらない関わりをしてもらえるとうれしく安心です。
 - 製作やクッキングなどデイサービスのように療育があり、思い出になるような企画を盛り込んでもらえるといいなと思います。

数字で見るソルウェイズ 2023

全事業の 利用登録人数

5事業所のデイサービス(生活介護含む)、
居宅介護(移動支援)、訪問看護ステーション

265人

訪問看護の 1年間の訪問件数

医療 3,301件
介護 3,848件

5事業所の デイサービス(生活介護含む) 利用登録人数のうち 人工呼吸器の 利用がある人数

74人

最大開所日数

304日/年

5事業所の デイサービス(生活介護含む) 入浴を提供した回数

10,955回

獲得した 助成金

10件

居宅介護事業所の 1年間の訪問件数

居住 1,491件
移動支援 271件

5事業所の デイサービス(生活介護含む) 送迎をした回数

1,766回

5事業所の デイサービス(生活介護含む) 利用登録人数のうち 医療的ケアが ある人数

108人

投稿したSNS

Facebook、insta、twitter

583回

ショートステイ シミュレーション

4回

5事業所の デイサービス(生活介護含む) 医療的ケアのスコア

3,143

2023年度決算報告

勘定科目	前年度決算(B)	当年度決算(A)	増減(A)-(B)
受取会費	100,000	1 240,000	↑ 140,000
受取寄付金/ 資産受贈益	11,280,080	2 4,452,636	-6,827,444
受取助成金	7,862,258	3 14,220,000	↑ 6,357,742
受取補助金	5,874,114	4 6,007,860	↑ 133,746
自主事業収益/ 利用料収入	315,766,606	5 373,055,864	↑ 57,289,258
事業収益1	100,500	6 90,000	-10,500
雑収益 等	1,192,860	4,017,379	↑ 2,824,519
経常収益計	342,176,418	402,083,739	↑ 59,907,321
事業費計	313,489,638	7 366,810,891	53,321,253
管理費計	7,368,022	9,036,042	1,668,020
経常費用計	320,857,660	375,846,933	54,989,273
当期経常増減額	21,318,758	26,236,806	4,918,048
経常外収益計	0	746,000	746,000
経常外費用計	0	764,961	764,961
税引前当期正味 財産増減額	21,318,758	26,217,845	4,899,087
法人税、住民税 及び事業税	1,057,300	1,344,000	286,700
当期正味財産増減額	20,261,458	24,873,845	4,612,387
前期繰越正味財産額	14,777,368	35,038,826	20,261,458
次期繰越正味財産額	35,038,826	59,912,671	24,873,845

1 ソルキッズ初の法人会員個人・法人の垣根を超え、「個人・法人の垣根を超え、どんな重い障害があっても地域で生きていく」社会の実現に向けて、さらなる実践を展開していきます。

2 法人寄付・寄贈が前年比約倍になりました。中には自動車の寄贈がありました。幅広いニーズが高まっている訪問看護において活用しています。

3 2023年度は日本財団・中央基金会をはじめ、10件の助成金を採択いただきました。医療福祉制度の枠組みを超えたソルウェイズの活動を応援してくださる団体が増えたことを実感しています。

4 北海道や札幌市、石狩市からの補助金です。石狩市からは、医療的ケア児受入促進事業補助金をいただいています。

5 デイサービス、居宅介護事業所、訪問看護ステーションすべての事業所で昨年度より収益がアップしています。特に居宅介護事業所は、スタッフを増員し、前年比175%の増収です。

6 多機能型重症児者デイサービス「モアナ」の生活介護に通う利用者様が社会活動として行っている、モアナコーヒの売り上げです。利用者様がパッケージをデザイン、作成し販売を行っています。

7 各事業所の人件費や経費です。2023年度は昨年度に比べて正職員が13名増えました。パート職員から正職員にキャリアアップした職員もいます。また、物価の高騰により事業所の光熱費やガソリン代が増加しています。



財務内容の詳細は、
こちらからご覧いただけます。

2024 年度事業計画

2024 年度は医療・介護・福祉のトリプル報酬改訂があり、デイサービスは減収が見込まれるものの、ソルウェイズが先進的に取り組んできた、デイサービスでの入浴支援や医療的ケアのある子どもたちの送迎、家族支援については、一定の評価があり、さらなる質の向上が求められることが予想されます。

ソルウェイズでは、デイサービスや訪問看護、居宅介護、居宅訪問型児童発達支援、保育所等訪問支援、相談室、全ての運営強化や連携に努めます。

2025 年 4 月こども未来支援拠点「あいのカタチ」の開設に向けて、新たな展開に挑戦する年度となります。

ソルウェイズの活動 その 1



当事者

重度の障害や医療的ケア児者

「親から離れても不安なく過ごすことができる経験をつくる」

- ソルウェイズで運営する各事業の質の向上のため、社内研修会の実施や他団体の研修にも参加します。
- 北海道外にあるモデルとなる施設の見学を行い、「いけプロ」活動報告会で報告します。
- 季節のイベントをはじめ、ご家族も招待し、日頃の事業所での活動を知ってもらえる機会を提供します。

ソルウェイズの活動 その 2



家族

「障がいのある子ではなく、この子の人生を考える時間を」

- 今年度は対面での家族同士の交流イベントを実施する予定です。就学や卒業などの将来への不安を語りあう情報交換の機会を提供します。
- 重い障がいや医療的ケアのある子どもたちの、地域の保育園等への入園が広まるように、主な介護者である母親の就労が進むように、保育園向けの勉強会やネットワークづくりを引き続き実施します。

ソルウェイズの活動 その 3



地域

「ショートステイや長時間レスパイトを身近に」

2023 年度にいただいた助成金や寄付金を活用し、2025 年開設予定のショートステイのシミュレーションを引き続き行います。より実践的なシミュレーションを行い、どのような設備や医療機器、システムなどがあればよいかの検討を重ねるために、ショートステイワーキンググループを結成します。
月1回のメールマガジンや SNS、年次報告書を通じて、「いけプロ」を含めた、ソルウェイズの活動を発信して、ショートステイの必要性と価値を地域に広めていきます。

ソルウェイズを応援する

マンスリーサポーターで応援する



月 1,000 円からの継続的な寄付

単発寄付で応援する



お好きな金額をクレカ or 銀行振込で寄付

品物で応援する Amazon



Amazon

SNS 等で発信する

私たちの活動について人に話す
伝えるアクションを起こす。
SNSでのシェアも大歓迎です

寄付用途紹介

ショートステイのシミュレーション

- 重症児デイサービスでの「お泊まり会」の実施
- 宿泊を伴わなくても、家族のレスパイトや利用児者の自立に向けた活動のため利用時間を夜間まで延長する「お泊まらない会」の実施

視察・調査

- 2025 年に開業する小児科クリニックのモデルとなるクリニック・病児保育の視察
▶西真岡クリニック（真岡市）
- 訪問診療・病児保育・重症児・医療的ケア児の日中活動の障害福祉サービスを提供しているクリニックの視察
▶認定特定非営利活動法人うりずん・ひばりクリニック（宇都宮市）

啓発

- SNS の運用
- 保育園等職員に向けた医療的ケア児の研修会（年 4 回）
- 「いけプロ」活動報告会
- 「いけプロ」メールマガジン 配信
- 「いけプロ」ニュースレター 配信
- 「あいのカタチ」ロゴマーク作成
- 企業訪問

ボランティアに参加する / スタッフとして働く

ホームページまたはハローワークからお問い合わせください。

カレーを食べる

昨年度から引き続き、株式会社イシカンとのコラボ商品を進めています。「ソルウェイズまつり」で販売したり、チャリティー食事会で提供しました。カレーなら胃ろうからのペースト食にして注入しやすいとリクエストをいただき、子ども向けの甘口の商品開発を検討しています。



株式会社イシカン

洗濯をする

何度洗濯しても衣服やタオル、介護に使用するクッション等の「ニオイ」が取れないという悩みを株式会社ライトンの竹内代表へ相談。試作を重ね、洗濯機を開けた瞬間から、さわやかな香りが広がり、介護をしているお母さんの気持ちも晴れやかになる配合を開発しました。



株式会社ライトン

食事をする

2023 年 11 月、「いけプロ」支援者の方々と第 1 回食事を開催しました。初開催のため、こちらからお声がけした方々にご参加いただき、2022 年度年次報告書を用いて、これまでのソルウェイズや「いけプロ」の取り組みなどをお伝えし、参加者の皆さんから自分たちが「いけプロ」をどのように応援できるかを考えてもらい、メッセージをいただいて終了しました。



法人サポーター



住宅・店舗等のリフォームなら
A → 有限会社アット
 一般建設業 一級建築士事務所

IS 株式会社 イシカン

北海道ビーエム工業

クラノス株式会社
 株式会社北海道ビーエム工業
 あおぞら診療所ほっこり仙台
 ノースワン株式会社
 マルキン工業株式会社
 株式会社東日本住宅総合サービス
 医療系任意団体君がため
 アーク株式会社
 特定非営利活動法人あいまち
 愛媛県重症心身障害児（者）を守る会
 特定非営利活動法人テレサの丘
 株式会社一丸越後屋商店
 ベスト・ケア・サポート

株式会社クローバー
 医療法人社団智愛会
 株式会社田村義肢製作所
 株式会社 SOCIALGATE
 松森機材株式会社
 株式会社 TSUKAM
 WorldArkMix
 田中・渡辺法律事務所
 特定非営利活動法人みらい予想図
 特定非営利活動法人 for R
 特定非営利活動法人合
 株式会社まるいち
 未来介護福祉タクシー

札幌大通ライオンズクラブ
 高田英明法律事務所
 アビリティーズ・ケアネット株式会社
 株式会社博光
 ゴリラパートナーズ
 日本酒 Night
 エムズ・インダストリー株式会社
 合同会社北海道療育研究所
 特定非営利活動法人 U-mitte
 特定非営利活動法人心魂プロジェクト
 医療法人社団立石クリニック
 株式会社イシカン
 さいとう薬局

「262」の寄付が集まりました

赤城秀紀	小山内大地	小林まり恵	鈴木雄介	野澤めぐみ	村田里美
安達陽子	海谷美津子	小松陽	須田美佳子	野島正光	村田拓真
安部恵美	海谷由希	齋藤奈央	須藤育恵	野知有郁子	村山文彦
新井正輝	蠣崎基	佐々木久美恵	関友子	橋本絹代	室井美香
飯田祥男	加藤志乃	佐々木慎太郎	高木孝壽	橋本知	森田聡
飯田典子	鎌田寿子	佐々木大介	田垣博章	橋本陽子	森正幸
猪狩智子	鎌田博	佐々木俊幸	高田英明	原田和夫	柳井康祐
磯邊智	神代律子	佐々木智教	高橋紗月	日高和泰	柳沢将
伊藤隆道	亀松洸也	佐藤一浩	高橋寛子	平澤陽子	矢野南那子
伊東祐子	亀松洋平	佐野妙子	竹浪元実	平野ますみ	山下愛
井上史乃	神田秀樹	塩山梨乃	田添敦孝	藤井優美	山田正幸
岩下和裕	木村鳳憲	鹿戸麻美	田村和也	法量正子	山本雅佳
岩波公子	工藤勲	鹿野牧子	田村卓也	本間多香美	山本香織
岩波剛	工藤美帆	設楽幸子	津曲真由美	松井晃子	山本桐子
岩間旭	栗澤梨絵	下倉孝	出口明美	松井紗和子	吉永美佐子
上野恵	栗田美鳥	下村聡子	富樫幸代	松岡智子	吉成一美
内野愛	黒木健太	城下梓	富田訓司	松久直樹	芳村幸司
運上佳江	瀬瀬栄司	城市美香	トヨタトシロウ	松森弘光	米村明美
江島紀和	合田たか子	鈴木あさ美	名和美穂	水上八行	和田順義
太田由美子	合田政修	鈴木桂	西部寿人	見谷文子	渡部美千代
岡崎利治	小坂部由佳里	鈴木大馳	西村幸	村岡章子	
奥田萌	越山克志	鈴木宏美	野上勝司	村上友江	

(順不同・敬称略) 公表に同意をいただいた方のみ掲載します。

NPO法人ソルウェイズ 2023年度 年次報告書

発行者 特定非営利活動法人 ソルウェイズ
 発行所 札幌市中央区北10条西19丁目1-1
 本文 大庭 美菜
 デザイン 一般社団法人 チャーミングケア
 編集担当 運上 佳江 (特定非営利活動法人 ソルウェイズ)
 企画協力 合同会社めぐる